

報道関係者 各位

平成24年9月28日 日本科学未来館

常設展示のリニューアルについて

新規展示「ぼくとみんなとそしてきみ ―未来をつくりだすちから―」 平成24年12月22日(土)公開

日本科学未来館(略称:未来館、館長:毛利 衛、所在地:東京都江東区青海)は、5階常設展示フロア「世界をさぐる」の「人間」コーナーをリニューアルし、新規展示「ぼくとみんなとそしてきみ ―未来をつくりだすちから―」を12月22日(土)から一般公開します。

本展示では、脳科学、霊長類学、認知科学などの多様な視点から明らかになってきた、「生物としての人間」の性質を知り、私たちの未来社会について考えます。

展示空間は、巨大な映像を用いた4冊のしかけ絵本で構成されています。この中ではストーリーテラーとして「ぼく」が登場し、人間を科学的視点から観察していきます。1巻では「ぼく」の脳や体のはたらき、2巻では「ぼく」とだれかとの間で起こること、3巻では「ぼく」がみんなの中でふるまう様子を通して人間がいかに「他者と関わって生きる」性質をもっているかを知り、4巻ではこの展示の体験者である「きみ」自身とだれかとの関わりを描きます。

人間の研究は、哲学や社会学、医学、生物学などさまざまな側面から長きにわたって行われてきました。しかし、脳の働きや社会性のルーツなど、明らかにされていない部分は多くあります。本展示では、科学的知見から新たに見えてきた「生まれながらにして、他者との関係性を築く性質を備えている生物」としての人間像を、「ぼく」、「ぼく」とだれか、「ぼく」とみんな、と視点を変えながら描き出していきます。

未来館では、よりよい未来社会を築くためには、私たち人間の立ち位置を再確認し、生物としての人間の性質を正しく捉えることが欠かせないと考え、今回の制作に至りました。本展示を通して「人間とはどんな生き物なのか」を改めて見つめ直し、それを通して「よりよい社会」のあり方を探ります。

■概要■

公開日 2012年12月22日(土)より公開
場所 日本科学未来館 5階 常設展示「世界をさぐる」の「人間」コーナー
開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館時間30分前まで)
休館日 毎週火曜日(ただし、祝日、春・夏・冬休み期間は開館)、年末年始(12/28～1/1)
入館料 大人 600円、18歳以下 200円 / 団体(8名以上) 大人 480円、18歳以下 160円
※障害者手帳所持者は大人および付き添い者1名まで無料
総合監修 松沢哲郎(京都大学霊長類研究所教授)
クリエイティブディレクション・絵本制作 tupera tupera (ツペラ ツペラ)
企画・制作 日本科学未来館

※電力事情やその他状況により、開館日、営業時間等が変更になる可能性があります。随時、未来館ホームページにてお知らせします。

URL: <http://www.miraikanjst.go.jp>

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp	日本科学未来館 事業推進課 プロモーション担当 (press@miraikanjst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

[展示構成]

この展示では生物としての人間の姿をストーリーテラーの「ぼく」の目線を通して、大きな映像を用いた4冊のしかけ絵本で描きます。

第1巻 ひとり ―自分をうみだす脳―

「ぼく」の脳の中で何が起きているのでしょうか。脳のどの部位の、どんな働きが感情や記憶、行動を生み出しているのか、「ぼく」の内部をさぐります。

「記憶のメカニズム」: 記憶は環境の影響を強く受け、ときには書き換えられることもあります。

「脳内物質」: ころも行動も、小さな目に見えない神経伝達物質の働きが関わっています。

「感情のメカニズム」: 脳の奥にある扁桃体が快・不快の判断をして、感情がうまれます。

「判断のメカニズム」: 感情は行動に結びつきます。行動の決定はおもに脳の前の方にある前頭葉で行われます。

第2巻 ふたりで ―他人をとりこむ性質―

「ぼく」と他者のふたりになったときに、脳の中で起きていることを紹介します。相手に認められたいという感情を生み出す脳の仕組みや、他の霊長類と人間の行動の違いを観察する実験から、人間は他者を自分の一部としてとらえる働きを備えていることがわかります。

「模倣」: 他者のまねをすることで、行動の仕方やその意味を学ぶことがわかっています。

「社会脳」: 他者に認められたい、社会に関わっていききたいという思いを支えているのは、感情を生み出す脳の働きです。

「共感」: 人は他者の痛みを理解することができる生き物です。これは、他者が痛がっている姿、悲しんでいる姿を見て、その痛みを脳内で自分の痛みとして処理しているからであることがわかってきました。

「同調」: 人は、他者の動きにシンクロすることがあります。これは他者の行為に特別に反応する脳の部位がなせる業です。

第3巻 みんなと ―社会の中で生きる―

大勢の人間が集まったとき、「ぼく」や「みんな」には何が起きているのでしょうか。霊長類学、社会心理学などの視点から、集団の中で発生する言語や協力関係、ストレスなど人間ならではの現象を読み解きます。

「協力」: チンパンジーの行動と比較すると、人は自発的に他者に関わろうとする傾向があることがわかりました。

「言語」: 細やかなニュアンスを相手に伝えることができるのは言語を操る能力のおかげ。また情報を言語という形でポータブル化し、遠く離れた人や過去や未来の人々とも関係を築くことができます。これは、人ならではの能力であると言えます。

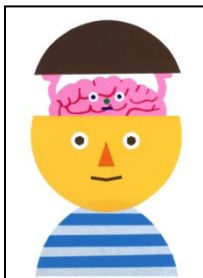
「ストレス」: 社会で生きることは時にストレスをもたらします。強いストレスに対しては外部からの情報を遮断するなど、脳には「自己防衛反応」があることがわかってきました。

「社会心理」: 貴重な食べ物を他者と分け合うなど、人は時として、自分の利益にはならない行動をとることがあります。こうした心理の背景には、進化の過程を通じて集団の中で生き抜いてきた人の特徴が見えてきます。

第4巻 きみとの未来 ―未来をつくりだすちから―

「人間は他者と関わりをもつ」という性質を知った上で、改めて自分自身の周りの関係性を捉え直します。人間の謎に挑戦し続ける研究者のメッセージを通して、自らと他者が築く関係性が世界を変え、未来をつくるということが見えてきます。

[参考画像]

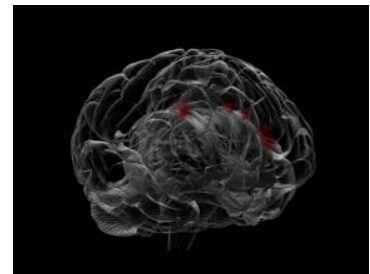


ストーリーテラーの「ぼく」



チンパンジーの視線の動きを調べる実験

提供: 林原類人猿研究センター



体罰による前頭皮質の萎縮

提供: 福井大学子どものこころの発達研究センター 友田明美

※本件に関するプレスリリース、及び関連画像は未来館ホームページよりダウンロードしてご利用いただけます。

URL: <http://www.miraiKAN.jst.go.jp/press/>